

文化祭



体育祭



クラスマッチでのひとコマ



バレー部 全校応援



部活動



遠足 (吹上浜海浜公園)



修学旅行 (関西)



来春開校する鹿児島西高

働く青少年のための学校、鹿児島西高校(仮称)が来春四月から開校します。場所は鹿児島市下伊敷町で、鉄筋コンクリートの五階建て。理工事が順調に進んでおり、開校の四月までは一期事が終わり、さっそく授業を始めることが見えています。働く若者の学校、鹿児島西高校を紹介しましょう。

リッパな施設

鹿児島県下では日新高校をはじめとする夜間高校(鹿児島工業高

通商科の授業を組合わせています。

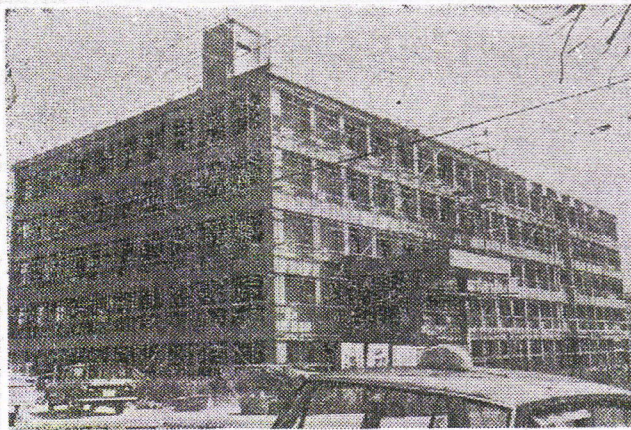
多い学科

設置課程や学科の組織は以下

年少労働者に福音
職業教育に重点おく

定時制(夜間)、それに準拠高校通
信教育課程などが働く青少年のた
めの高校として授業を始めていま
す。新入生は市の高校が、日新
高校と通信教育が合併してつくり
たいという思いで、定時制のみに

鹿児島西高のほか、文部省は
着手、和歌山を同一面校を作る
旨も指示しています。これは年
間、定時制、定時通信併修、通信
の三つがめざす。募集定員を学科
ごととして、通商科、衛生看護科



七分どおり完成した校舎

課程	学科	募集定員	学級数
定時	通商	46	2×4=8
	商業	46	1×4=4
定通	通商	40	1×4=4
	商業	40	1×4=4
併修	衛生看護	40	1×4=4
	農業経営	40	1×4=4
通信	普通		

科もほぼ商業科と同じシステムで

次に商業科ですが、一年から二
年までは通商科で授業を受ける。
三、四年は通信教育だけで単位
をとれるしくみです。衛生看護学
科もほぼ商業科と同じシステムで

定時、通信教育はこれまでお
りとして、併修課程の授業は通
商科、衛生看護科、農業経営科
の三つで行なう。あついで、通
信課程は通商科、商業科、衛生
看護科、農業経営科の四つで行
なう。通商科は通商科、商業科
の二つで行なう。衛生看護科は
衛生看護科、農業経営科の二つ
で行なう。農業経営科は農業経
営科、衛生看護科の二つで行な
う。

れまると大幅に変わったのは、定
時併修制度が設けられたこと。
その中で職業教育を主とする学科
(商業、衛生看護、農業経営)が
大きな比重を占めていることが注
目されます。

ですが、これは募集単位がある
ため卒業資格は百単位。したがっ
て一年から三年まで通商科、
四年だけが通信教育を受けること
になります。

1967.8/10 南日本新聞

Message

かけがえのない3年間

平成3年全日制商業科卒 久永 美保

高校生活を振り返って印象に残っていることは、ソフトボール部のキャプテンと生徒会長という貴重な体験をさせていただいたことです。両立というのは、大変で忙しいだろうと分かっていましたが、どちらも興味を引かれ、一度しかない高校生活を満喫したいと思ったのです。

ソフトボール部ではキャッチャーでキャプテンという大役を任せられました。両方とも司令塔でありリードの仕方一つで流れが変わってくることもありプレッシャーに押し潰されそうになることもありました。ですが、仲間と一つの目標に向かって努力し結果が出せたことで自信を持つことが出来ました。

また、生徒会長という立場も生徒の模範となりリードしていかなくてはなりません。生徒と先生方との間で意見がまとまらず悩んだこともありましたが、仲間とより良い西高になるように話し合い、成し遂げたことで自信を持つことが出来ました。今回、閉校になります。西高校で培った思い出は大切に心に保管しておきます。

地域住民と清掃活動をする鹿児島西高校の生徒
—1月31日、鹿児島市下伊敷1丁目



地域住民と清掃活動

鹿児島市下伊敷一丁目の鹿児島西高校が、下伊敷町内会連合会や商店街の栄門通り会と共同で、地域の清掃活動に取り組んでいる。活動は昨年十月から月一回のペースで実施、四回目を迎えた一月三十一日は約百人が参加した。地域美化に加え「生徒と住民との間に面識ができ、安心安全にもつながる」と地域も期待している。

下伊敷の町内会、通り会と毎月

ふれあい、きずな深まる 鹿西高

同校は市の「みんなであちを美しくする条例」に基づく「まち美化推進団体」に登録。学校を挙げた清掃活動を行っていたことから、市環境衛生課などの勧めもあって共同活動が始まった。同日の清掃活動では、生徒と住民らがともに声を掛け合いながら学校周辺と近くの栄門公園などを一時間かけ清掃。四十五袋入りポリ袋で十五袋分のごみを集めた。生徒会副会長の田村美香さん（二〇一二年）は「街がきれいになって、達成感がある」と話した。生徒は校内で過ごす時間は長い。これまで地域住民と触れ合う機会は少なかった。森山武志校長は「生徒の登下校の様子も気にしてもらえ。地域に育ててもらっていると感じる」と波及効果を実

感じている様子。下伊敷一丁目の町内会「睦会」の比良田輝明会長（左）は「高校生と一緒に一つのことをできたのがうれしい」という。清掃活動がきっかけとなって、地区の文化祭に同校生徒の参加もあった。市環境衛生課では地域と学校が連携する清掃活動を来年度以降の三年間で市内の全小学校区に広げる計画だ。

2009.2/1 南日本新聞

鹿児島西高校（鹿児島市）の二年生二十人が十七日、修学旅行先の京都市の京都駅で鹿児島観光PR活動をした。パンフレットなどを配り、鹿児島観光の魅力情報を発信した。公園清掃など地域貢献活動に取り組む同校は、八月に城山展望台で手作りの

修学旅行中 鹿児島PR

京都で鹿西高20人

京都駅前で行く鹿西高観光PRする生徒たち
17日、京都市

「観光まちを配るなど、観光PR活動に取り組んできた。その一環で修学旅行の自主研修として、全国から観光客が集まる京都でのPR活動を決めた。高田彩華さんは「指宿や桜島のことを尋ねる人もいて、鹿児島に大いに興味は、のぼりやポスターを掲げ、通動客らに「観光うちそうだった。」



2007.10/18 南日本新聞





色や柄、世界に一つ、大島紬で髪飾り

鹿西高3年12人「郷土の良さPR」
 県立鹿兒島西高校（鹿兒島市下伊敷1丁目）商業科の3年生12人が、大島紬を材料にした「奄美ゆいの髪かざり」を製作した。「特産品を活用したアクセサリで郷土の良さをPRできれば」と張り切っている。

生徒がアイマ設定を布地を張った直径3センチの丸い飾りを取り、大島紬を材料にした「奄美ゆいの髪かざり」を製作した。「特産品を活用したアクセサリで郷土の良さをPRできれば」と張り切っている。

生徒がアイマ設定を布地を張った直径3センチの丸い飾りを取り、大島紬を材料にした「奄美ゆいの髪かざり」を製作した。「特産品を活用したアクセサリで郷土の良さをPRできれば」と張り切っている。

生徒がアイマ設定を布地を張った直径3センチの丸い飾りを取り、大島紬を材料にした「奄美ゆいの髪かざり」を製作した。「特産品を活用したアクセサリで郷土の良さをPRできれば」と張り切っている。

鹿兒島西高校の生徒が作った「奄美ゆいの髪かざり」

髪飾りは今後、1個150円で同市の城山観光ホテルで販売する予定。緒方悠帆さん（左）は「大島紬は、柄が細かくてかわいらしい。子どもや若い人たちに、身近に感じてもらえたら」と話した。

同校は07年から鹿兒島の観光PR活動をしており、つわね、屋久杉のくい飲み、大島紬の大島紬の髪飾りを完成させた鹿兒島西高校の生徒、鹿兒島市下伊敷1丁目の同校。

2010.7/14 南日本新聞

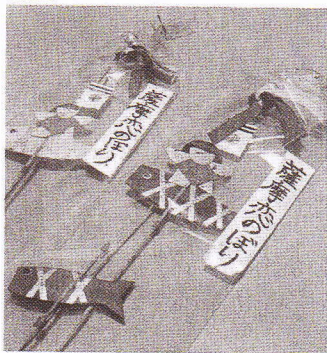
2008.5/2 南日本新聞

蒲生と宮之城の伝統工芸コラボ



「薩摩恋のぼり」を作った鹿兒島西高校生ら
 一鹿兒島市下伊敷1丁目の鹿兒島西高校

あすドルフィンポートで販売



「薩摩恋のぼり」

西高生「恋のぼり」100個作製

鹿兒島市下伊敷1丁目の鹿兒島西高校の生徒たちが、蒲生の和紙と宮之城の竹ひしを使った「薩摩恋のぼり」100個を作製した。三日前九時から、同市本港新町のドルフィンポートで一個五百円で販売する予定で、生徒らは「鹿兒島の伝統工芸を、見直さすきっかけを作りたい」と意気込んでいる。

この「ぼり作り」販売は同校の課題研究の一環。五色の吹き流しと青赤のこーい、丸に十の字のぼりを鶏負った金太郎がセットになったかわいらしいデザイン。高さ約九センチで、花瓶などに挿して飾ることもできる。恋のぼりの名称は「鹿兒島が恋しいと思えるように」との願いを込め、生徒が名付けた。

薩摩川内市平佐町で手芸を教える井弘美さん（もも）に指導を受けた生徒十人が、放課後などを活用し約三週間かけて作製。約千四百年の伝統を持つといわれる蒲生和紙、生産量日本一の宮之城の竹ひしなどをデザインした。

同校三年の谷山里美さん（もも）は「販売を機に、鹿兒島の伝統工芸の良さと西高の取り組みを知ってもらいたい」と話した。

た。久保浩之（教諭引）は「観光PR活動も閉校する本年度まで、全国まで大島紬を届けた」と話した。

Message ③

思い出を大切に

平成4年全日制商業科卒 金川(多丸) 美穂子

母校である鹿兒島西高等学校の閉校を、とても寂しく感じております。3年間の高校生活では、勉強やスポーツ、部活動、体育祭、クラスマッチ、そして友達や先生方との出会いなど、たくさんの思い出を作ることができました。担任の先生は、私たち生徒一人一人を常にしっかりと支え見守り続けてくださいました。就職活動に向けて、資格取得に取り組み、たくさんのご指導もいただきました。おかげさまで、第一希望の会社に就職することができました。先生方にはとても感謝しております。今もこの会社で働けることに感謝し、この学校で学んだこと、先生方に教えていただいたことを忘れることなく、西高の卒業生としてこれからも頑張っていきたいと思っております。たくさんの思い出を大切にしていきます。本当にありがとうございました。